

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばと発達の相談室 おのまとペ		
○保護者評価実施期間	2024年12月20日		2025年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数) 46
○従業者評価実施期間	2025年1月20日		2025年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職種を全ての日に配置した個別指導。 保護者への支援として、毎回親子通所で十分なヒアリングと相談時間を設定。	主に個室を2つ利用しての個別指導、他の部屋または大きな訓練室を保護者と兄弟児の相談等に利用。  都度、お子さんの	家族や兄弟児を同伴しての来室が多い。保積極的な働きかで保護者や兄弟児への対応を通じ、利用児の環境調整となるよう配慮したい。
2	言語聴覚士による言語認知発達に特化した支援と臨床心理士、教員による学習困難、発達全般への視点での保護者を含めた支援。	保護者のニーズと利用児の困り感を把握するためのアセスメントを充分に行い、専門的な支援に絡めた視点での助言を行う。毎回保護者と指導者ならびに在勤スタッフが近況の情報収集、フィードバックで共有の面時間を充分確保。	適時適切な支援に結びつくように、多角的な視点が持てる支援者としての専門性を高めていく。
3	一人ひとりの発達段階に合わせたプログラムで、保護者の意向やニーズをしっかりと聞き取って取り入れた計画を作成。	毎回の直接指導の中での変化に注意する。保護者との面談で得られた情報をなるべく早く支援に反映していく。	言語聴覚士心理士によらず他の有資格者のスタッフの専門性をさらに高めるための事業所内の勉強会や実践を通して利用者および保護者指導等の経験を積めるよう研鑽している

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害に関する利用者の訓練。	個別指導で親子で短時間の通所のため、全体での避難訓練の実施が困難。	スタッフ全員の非常時への備えや研修を実施するとともに利用時の面談時間を利用して保護者に対して非常時の対応への具体的な案内を行っていくことが必要。
2	地域のこどもたちとの接点や地域のコミュニティの交流	個別指導で親子で短時間の通所のため、イベントや地域の交流機会を持ってない。	個別対応の強味を生かした、お子さん(親子)それぞれに対して地域の情報を発信。事業所内でも時節のイベントを感じられるような環境を作って、働きかけていく。
3	父母の会	1年目で利用者が徐々に増えていく環境の中で、保護者同士で情報交換ができる人数や適切な時間帯を設けることが難しかった。毎回の通所の付き添いに加えて会を開催して保護者に参加してもらう時間的な負担が大きいと感じている。	次年度から開催する予定。限られた時間であるが、少人数でも気軽に集まれるよう告知して行いたい。